

おたいに、二重だいに

道具

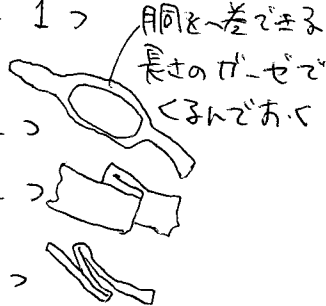
腰ひも 3本

セータクばさみ 1つ

帯枕 1つ

帯あげ 1つ

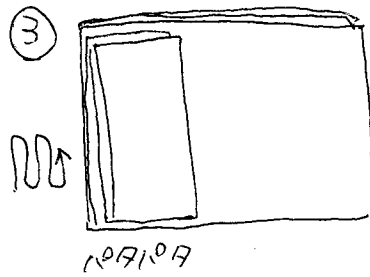
帯締め 1つ



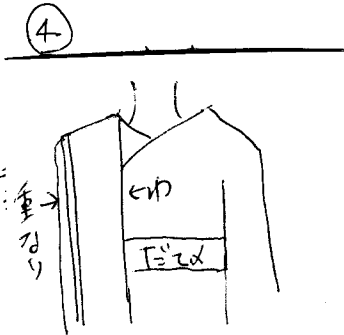
おたいに(-重)なら 名古屋帯 } いすゆか  
 京袋帯 } 1つ  
~~七五三帯~~

二重だいになら 袋帯 } いすゆか  
 (やれ袋帯) } 1つ  
 (長±4m20cm)  
 <small>くらい</small>

糸の結ぶ方は、おたいにも、二重だいに  
 そんなにかわらないので、一気にいきます。



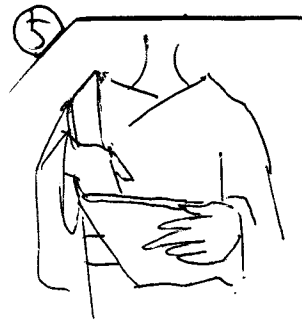
のニリは、ハタハタ  
 たたむ。  
 そして、帯板(ゴム付なり)  
 を装着。



たたんだ帯のはしを、かみ、  
 右肩にひっかける。  
 たたんだ「重なり」の  
 外側。折込しているところ  
 (「わ」)が自分側。

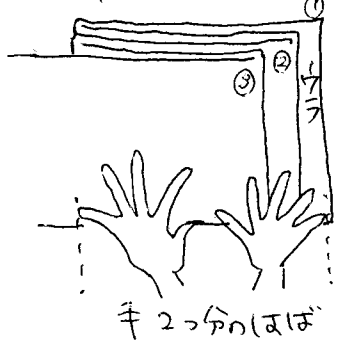


背中側は帯のはしが  
 だじじめにあたりにくい。



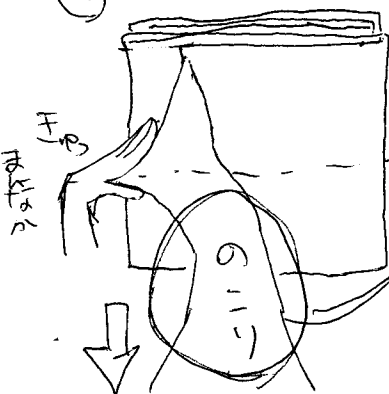
右手で左の方へ  
 帯を折リかえす。  
 「重なり」が自分側に  
 くるように。

① 準備 - たたむ



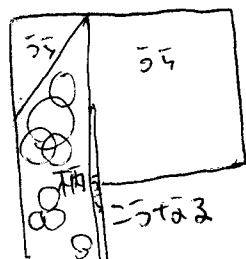
一番下を裏側に上にして  
 3回、手を2つあがげた  
 幅でたたみます。  
 (右側に羽根が3枚)  
 あるいはチェック

②



左手で、帯の真ん中を  
 しっかりとつかみ  
 残りを下へ。

折り紙をインジ

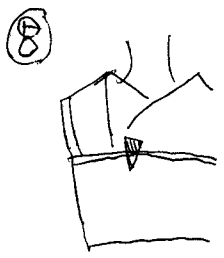


帯板から上すべ  
 はさむように、せたく  
 バサミをたなめに  
 うつ。



☆の角が体の中心  
 あたりにくるように。

右手で前をしっかり  
 あさすほう、  
 自分が時計まわりに  
 1周まわると、帯をまきつね

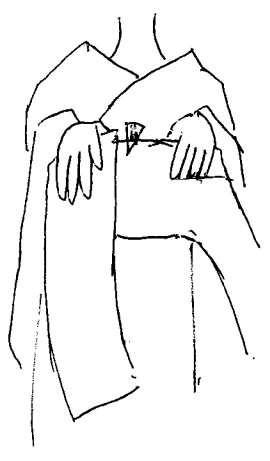


⑧ せんだにバサミを、帯板と胸に巻きつけている帯のみをはさんでとめる。

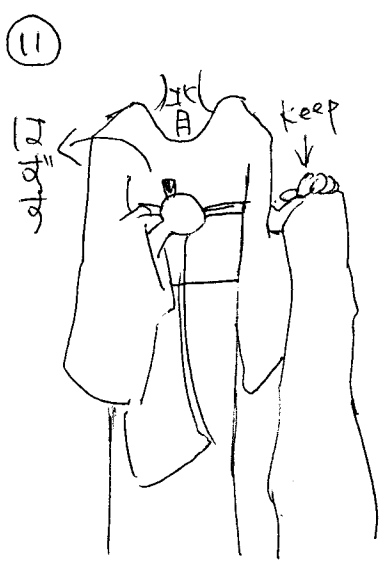
⑨ もう1周、時計まわりに自分かまわって帯をまきつける。

せんだにバサミを胸の帯のみはさむほうにする

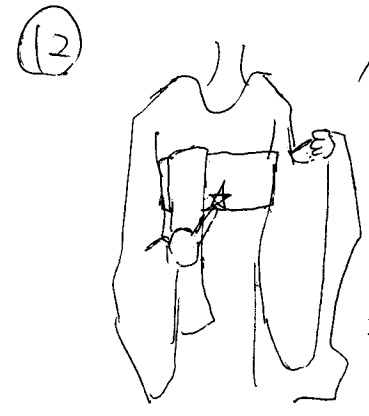
⑩ 帯をまわす。



肩にかけていた帯のはしをおろし、肩かけたところと胸の帯を右手、巻いている途中の帯がゆきまないうらに胸の帯を左手、でっかみ、親指は腹側にしっかり入れて、時計まわりにまわします。



⑪ 両手でもっていた帯を右手にもちかえ、ゆきまないうら少し引きたから、  
左手を背にまわして、せんだにバサミをとります。

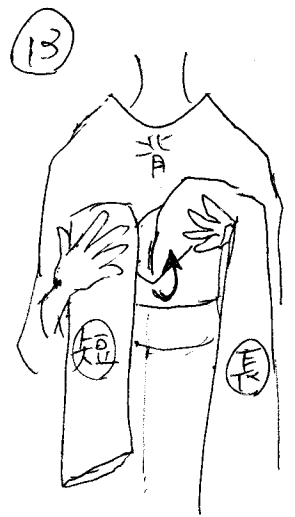


⑫ 右手はひきつぎ引きたから、左手を⑥のところにいれて、引かけます。

☆は、背中側～右ゆきまなうらのごころにあります。理想は、背中心くらいにきていふこと。

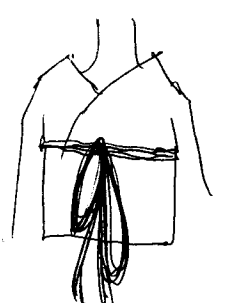
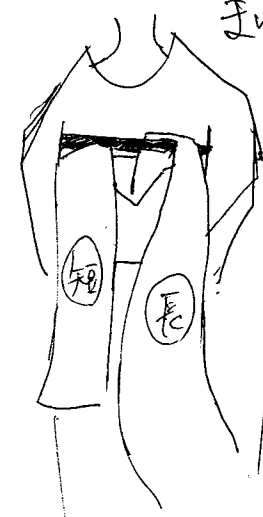
右手でもっている帯を引き、左手をひっかけたままにすると、しっかりと帯が締まります。

チャッチャッチャッ

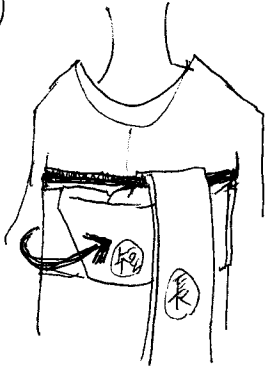


⑬ 短い方を左手でしっかりおさえ、右手で長い方を上に折子ほうにあげて、折りあげたところに腰ひもをうけます。

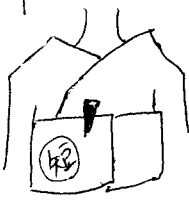
腰ひもほうしからまわして、折りどしかり締まる



14



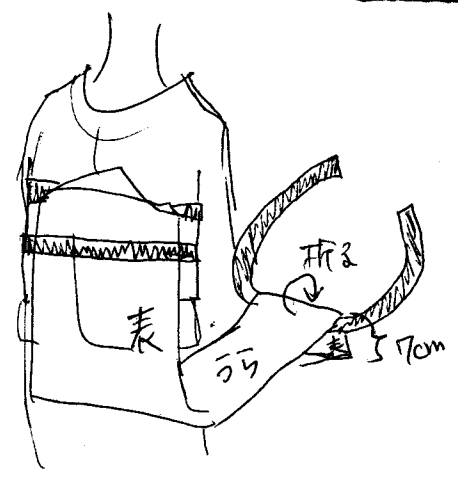
短い方を右へ折り、  
⑬で長い方を折りあげた  
ところを覆うように、前まで  
まわす。



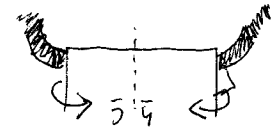
前までまわしたら、  
せたくバサミでとめる。

17

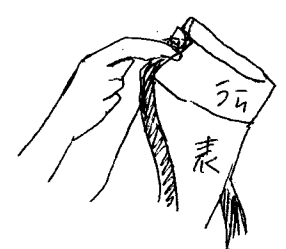
後ろにたいてい子先を  
とって前の方へす=し引き、



先を7cm程山折りにし、  
折ったところに腰ひも  
をひっかけ(通す?)。



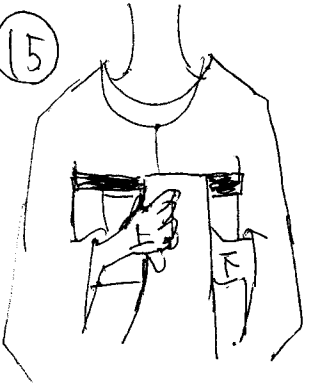
ひもを山折りの部分にはさ  
んだまま、帯の真ん中で  
谷折りにし、右手でつかむ。



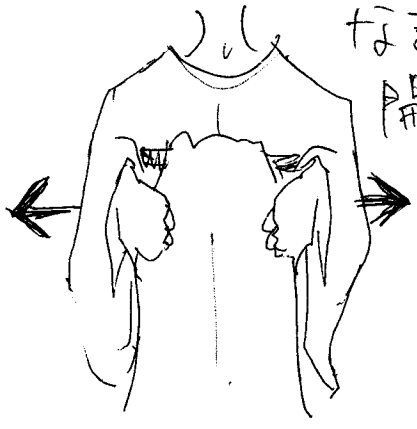
右手でつかんだまま背の方へ  
もどし、帯の真ん中あたり  
で両手でひらげ、帯のすぐ下  
で腰ひもをにあて、  
腰ひもを前でちまうちみ  
結ぶ。おたいの尻尾をこいて

④は次ページ

15



長い方の上側に重なってる方  
を左手でつかみ、下(本体側)の  
方を右手でつかむ。  
つかんだまま両手で外側に  
ひらく。



なるべく上の部分を(しっかり)  
開くこと。

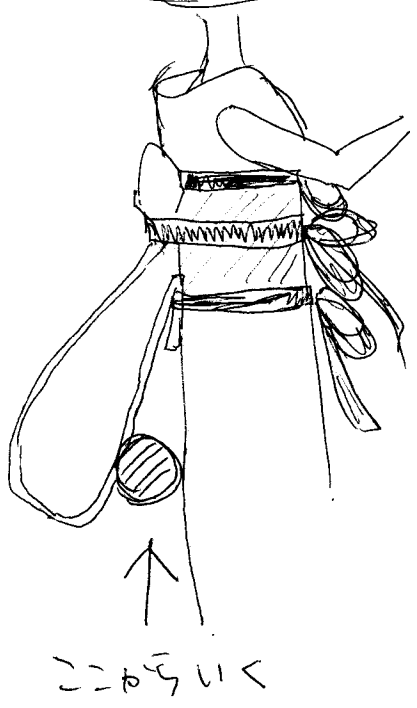
16



開いた状態をキーフ  
でききょう、帯の真ん中  
あたりをゆらして、後ろ  
から腰ひもをあて  
前でちまうちみ結ぶ。  
をする。

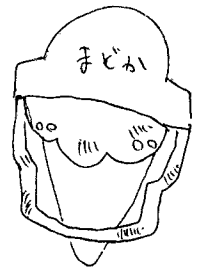


①⑨ 二重たいこ

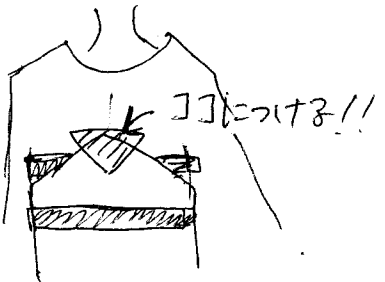


世帯枕の開始位置

①⑧ 女中は「...  
帯止め金具はここにつけましよう。」



まどおの帯止め、  
とがいうやつ。



あたいこ

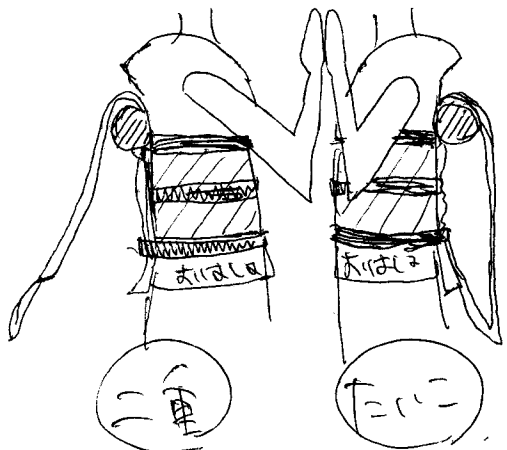
④ は帯枕  
を横めらした  
④



帯枕に帯揚げをふわふわと  
かけて軽くくさむらうに  
準備しててもOK。

※ ④は肘を前に出しますから  
帯まくりは背で、両手で持って  
下エい。

②① 帯まくりを背にそゆせよふらに  
 かける。(帯と金具を使っている場合は  
 6か月のせで、ひらけ子)



帯の上まできたら、帯枕の  
 ガーゼを締める。  
 少し、ななめ下には3/4(半)  
 気味に、ガーゼの下側を3色め  
 に締ると、崩れにくいの  
 ちゃう締む。

一番上の腰ひもを解いて抜く。  
 帯枕のガーゼを、帯とたにとの  
 間にぐっと押し込む。

帯枕に帯揚げがかかると、たにの  
 ば、こでかけて、前で軽く締めて、  
 帯甲とたにとの間に、こで  
 おく。

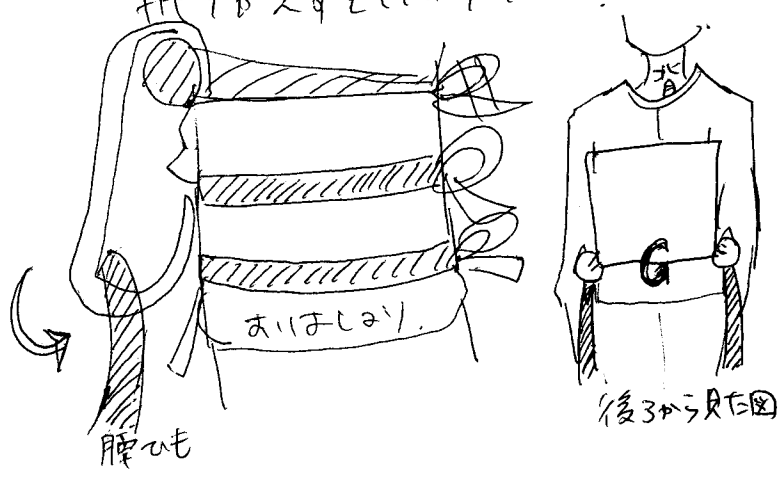
まどでさいごにキレーにします。

②② 腰ひもでおたいこのサイズをととのえ  
 つつ、作る。

二重

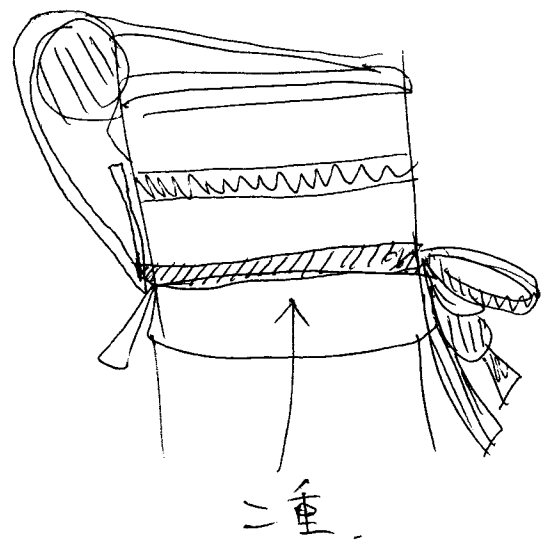
腰ひもを背側で両手にもち、  
 帯のほしをつかんで、中側(内側?)  
 に折りがえし、おたいこの大きさを  
 決めろ。

~~腰~~ 肩同に差いた帯の下糸あたりで  
 折りがえすといいサイズ。



折りがえしたとこを腰ひもで  
 とめる(前で締める)

一番下の腰ひもは二重にする。

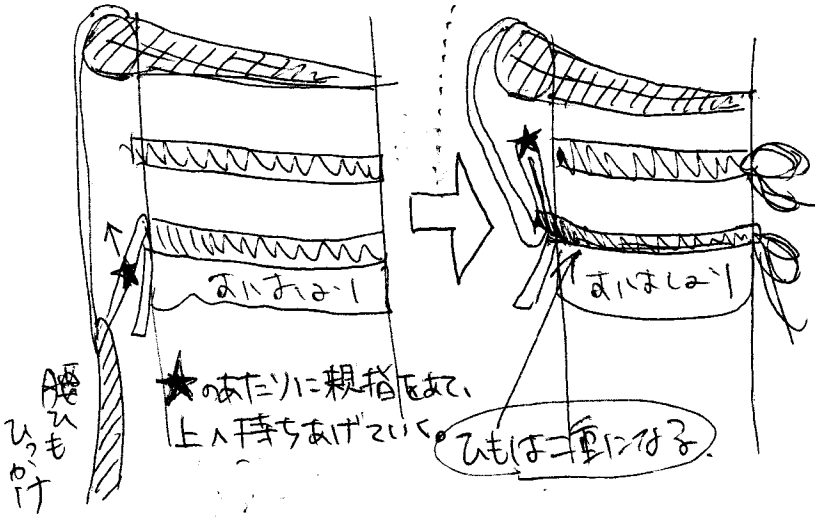
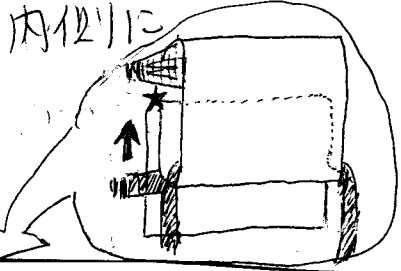


21) つぎ

おたいに

腰ひもをおたいの中に通し、ぶらりとさせろ。

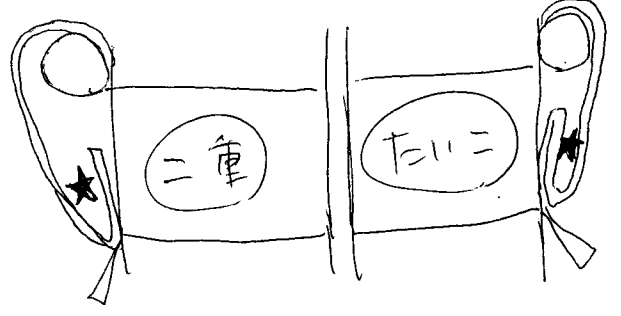
おたいの余分な部分を内側に折りあげていく。  
折りあげたら腰ひもを結ぶ。(下のひもに垂ね)



★のおたいに親指をあて、上へ持ちあげていく。  
ひもは二重にする。

あらかじめ、おたいのしつぽの長さを腰ひもで決めてい子ため、内側への折りあげが簡単で、サイズがいろいろと決まり子可。

23) 前にきていた短い帯はしを、背中側に通す。★のとこ

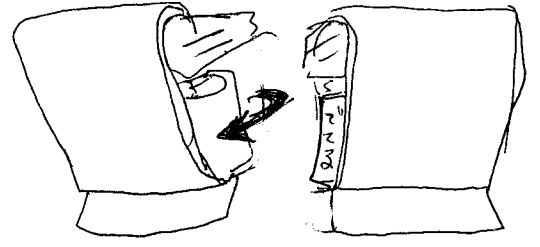


ニ重だいは、たいのが二重になって子ので、外から二枚めくたところ。  
たいは、一重なので、外から一枚めくたところ。

※折り返したところあり、内側にこない方に注意。

右側から入子るので、左の帯で帯はしをむかえに行っても子。

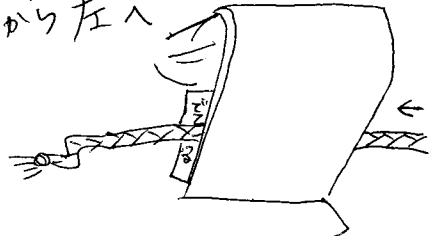
はしっちは、おたいの左からちまひついで子くらりがバスの長さ。



22)

帯中央の腰ひもと、せんとくバサミをはす。

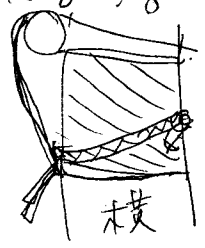
24) 23)で折りがえした帯はしのすぐ外側に帯締めを通す。右側から左へ



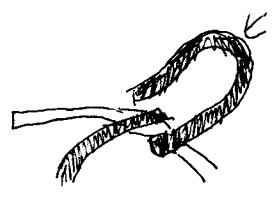
(25)

(2) ぞ折りがえしたところを、  
 帯しめでしっかりおさえていいと  
 いけしいので、(2)の折りがえし  
 が少くないときは、帯しめを  
 け子ぐく下の右に、十分に折  
 り返し長の長さがあるときは、帯しめ  
 を真ん中あたりにかける。

※ 背側で下の方にかけると、  
 前で真ん中にもってく子うに、  
 横と十字にすきはがきれいに  
 ととのいます。

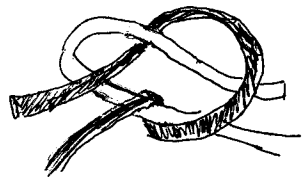


(3)



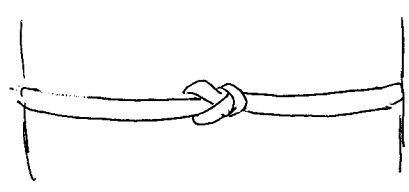
右手側で  
 輪をつくり、左のむも  
 土基の上へのせ、

(4)



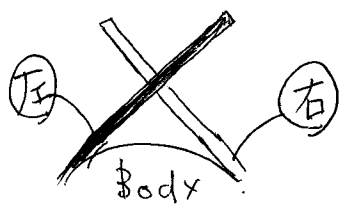
左手の土基を、  
 右の輪のうえから  
 通し、又へる。

平たい帯しめだと、整えるのが難しい  
 か、丸い帯しめだと玉かけが  
 長  
 目からみ子と一本線になる。

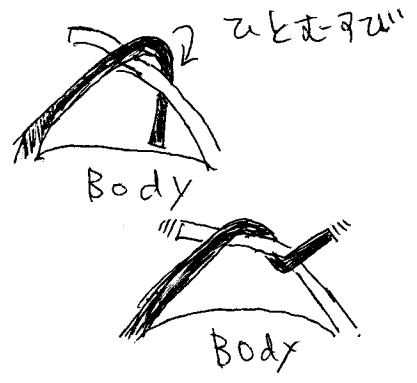


(26) 糸結ぶ (上からみた図)

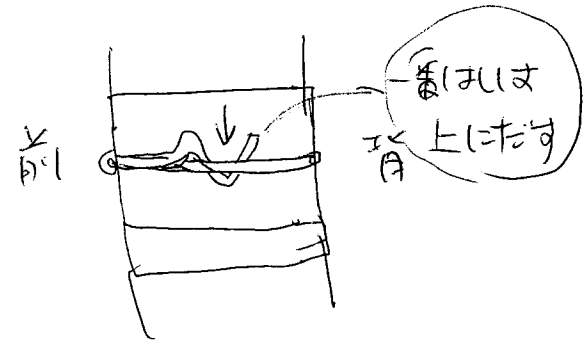
(1) 左側を上にかえねる



(2) 上側を中に通して



(5) 結んだはしを横におしこ

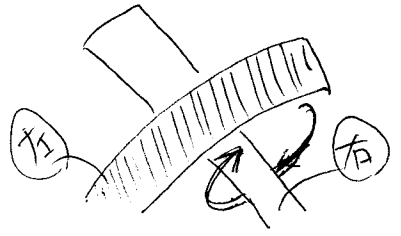


(27)

残る子腰むもると子。

28) 帯あげるとこのえり。

(1) 帯のあいだから取りだして、左右それぞれを、親指幅くらいに折り、とこのえり。



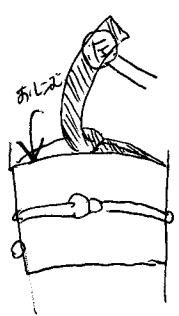
(2) 左側を ~~帯~~ 上に重ねて、ひと結びする。

(3) 結んで右にでまた矢を、上から左手にパス。



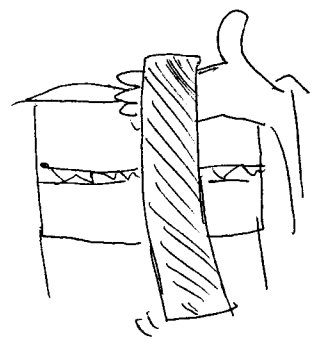
左の矢は下にぶらりん。

(4) 下にぶらりんしていたのを右手でもち、帯とたてじめの帯に、胴に合わせようにつらこ。しっかり奥まで。

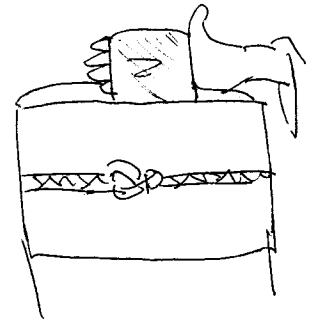


(5) 左手にもっている矢を、もう一度左手はに折りたたんで、幅もキレイに合わせり。

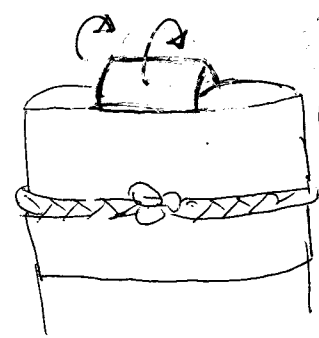
(6)



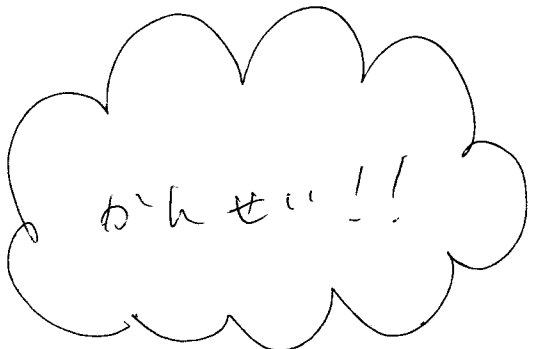
左手にひっかけ、ぶらさがっているところを右手で帯とたてじめの間につらこ。



(7) もっと手を抜き、半分は



(体の側)の折る。矢はぐっと奥へおしこ。



腰ひもを3本つこう、一見めんどうせ!! 右手の側ですが、3本つこうことにより、開きがピシッと決まります。コツがつかめたら本数を減らしましょう。